

【作文（中学生）の部】
国土交通省表彰 事務次官賞

『自分の命は自分で守れるように』

鹿児島市立鹿児島玉龍中学校 1年 大坪 奏祐

「雨が激しく、JRが止まりそうだから、生徒は下校してください。」

それは、家庭科の授業をしている時だった。担当じゃない先生が来て、言ったことだ。ぼくは、その言葉を聞いて、驚き、外を見ると確かに激しい雨が降り続いていた。

鹿児島は、毎年梅雨には、大雨になることが多く、今年、6月21日も、朝から大雨となっていた。ぼくの学校は、ほとんどの人が、鹿児島市内のあらゆる場所から、JRやバスを使って通学しているので、授業が打ち切りとなった。この日、鹿児島市では、降り始めからの雨量が二百ミリを超え、一部住民に、避難勧告が出たり、実際に、JRが運休したり、鹿児島県内は、交通の乱れが相次いでいた。JRで通学をしている友人は、心配そうにしていたが、運休する前に、下校することができた。

今年、鹿児島は、6月下旬も、大雨が降り続き、ぼくの学校の近くの稲荷町では、裏山が崩れ、土砂が、民家にまで迫る災害が発生した。また、屋久島では、短時間で記録的な大雨が降ったり、奄美大島では、豪雨が度重なったり、南大隅でがけ崩れによる土砂災害が多く発生した。鹿児島は、四十七都道府県の中でも、土砂災害が数多く発生している。その中でも、がけ崩れと土石流の発生が多い。がけ崩れが多いのは、鹿児島の台地が、シラスでできていることと関係がある。土石流が多いのは、桜島や霧島などの火山が多いからである。昨年、鹿児島県内では、百三件の土砂災害が発生し、死者も一人でた。雨がやんでから土砂災害が発生することも多い。ぼくは、自分の身の周りで、さまざまな土砂災害があると思うだけで恐ろしいというのに、死者がでたと知ると、とても恐ろしく感じた。自然の力には、人間の力では、とてもかなわないことを、実感した。

土砂災害に巻き込まれないために、ぼくは三つのことを考えた。一つ目は、大雨に関する情報を、一早く知ることである。そのためには、天気予報やニュースを、日ごろから、よく確かめていくことが必要である。気象台が発表する大雨の予想に関心をもって情報を得ることが大切である。土砂災害警戒情報は、気象台と県が共同で発表している。実際に降った雨がどれくらい地面の中に含まれているかや、今後どれくらいの雨が予想されるかなどの雨量データを注意深く検討している。過去に実際、どれくらいの大雨で土砂災害が起きたかなどの関係を検討し、土砂災害の危険性が高まった時に市町村ごとに発表されるものである。今年の梅雨でも、土砂災害警戒情報は、度々発表されていた。ぼくは、気象に関する警戒情報を聞いた時には、自分のいる場所の近くではないか、何が起こっているのかなどを確認し、場合によっては、少しでも早く避難できるようにしていきたい。

二つ目は、避難の仕方を前もってよく考えることである。どこへ避難するかを知っておき、学校の先生や地域の人々の指示をしっかりと聞くことが大切である。また、準備する物を早めに準備しておいたり、早めの行動を心がけたりする。特に、鹿児島は高齢者も多いので、地域で声をかけ合うことも大切である。ふだん、学校で学んでいる避難訓練が、土砂災害が発生した場合にも、生かされるように、訓練でも真剣に取り組んでいきたい。

三つ目は、自分の命は自分で守ることである。増水した川やがけなど危険な場所には、絶対に近よらない。また、がけから石ころが転がってきたり、水が流れ出しているなどの、がけ崩れの前兆現象を見かけたら、すぐその場を離れ、大人の人に伝えることが、大切である。ぼくは、がけ崩れの前兆現象を見かけたことはないけど、見かけた時には、土砂災害の発生を第一に考え、自分の命は自分で守る行動ができるようになりたい。

最近、地球温暖化が進み、集中豪雨が増えているとのことだ。土砂災害は、街の中でも発生する。また、鹿児島は、大雨の他に、台風や竜巻による災害も多い地域である。地震や津波などの災害も予想される。だから、大雨などの気象現象の発生の原因について学んでいきたい。また、人の命を守るために、正しい情報を一早く知ったり、早めの避難を心がけることは、本当に大切なことだと思う。